☆待降節第2主日（12月4日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読　（イザヤの預言　11 章 1-10 節）

エッサイの株からひとつの芽が萌えいで
その根からひとつの若枝が育ち
その上に主の霊がとどまる。
知恵と識別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り、畏れ敬う霊。
彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。
目に見えるところによって裁きを行わず
耳にするところによって弁護することはない。
弱い人のために正当な裁きを行い
この地の貧しい人を公平に弁護する。
その口の鞭をもって地を打ち
唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。
正義をその腰の帯とし真実をその身に帯びる。
狼は小羊と共に宿り豹は子山羊と共に伏す。
子牛は若獅子と共に育ち小さい子供がそれらを導く。
牛も熊も共に草をはみその子らは
共に伏し獅子も牛もひとしく干し草を食らう。
乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ幼子は蝮の巣に手を入れる。
わたしの聖なる山においては何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。
水が海を覆っているように大地は主を知る知識で満たされる。
その日が来ればエッサイの根はすべての民の旗印として立てられ
国々はそれを求めて集う。
そのとどまるところは栄光に輝く。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 15 章 4-9 節）

皆さん、かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができるのです。忍耐と慰めの源である神が、あなたがたに、キリスト・イエスに倣って互いに同じ思いを抱かせ、心を合わせ声をそろえて、わたしたちの主イエス・キリストの神であり、父である方をたたえさせてくださいますように。
だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。わたしは言う。キリストは神の真実を現すために、割礼ある者たちに仕える者となられたのです。それは、先祖たちに対する約束を確証されるためであり、異邦人が神をその憐れみのゆえにたたえるようになるためです。
「そのため、わたしは異邦人の中であなたをたたえ、あなたの名をほめ歌おう」と書いてあるとおりです。

福音朗読（マタイ 3 章 1-12 節）

そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。これは預言者イザヤによってこう言われている人である。
「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」
ヨハネは、らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。
ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などと思ってもみるな。言っておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。

良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

朗読解説　ー主任司祭より皆様へー

　寒い冬本番がやってきましたね。寒さにやられないように気をつけましょう。さて、先週の日曜日からミサの「新しい式次第」が始まりましたね。まだ少しぎこちないところがあると思いますが、司祭の私も、微妙な言葉の変更があちこちにあり、鉛筆で傍線を引いて、間違わないように苦労しています。一緒に頑張りましょう。

今日は、先日入門式を受けられた方が洗礼志願式を受けます。クリスマスに受洗予定です。お祈りください。待降節に入り主日のミサは主の再臨を待ち望む気持ちにあふれています。現在私たちの心は何を待ち焦がれているのでしょうか。それは救い主がこの世界の苦しみを取り除いてくれることでしょうか。旧約時代のイスラエルの人々は虐げている敵からの解放を待ち望んでいましたが、その一方でその世界の誘惑に妥協してしまうことがあったようです。そのたびに預言者が現れて、主に向き直るように諭していました。

第一朗読　（イザヤの預言　11 章 1-10 節）

　預言者イザヤは敵の虐げに苦しむイスラエルの人々に、救い主が現れることを予言していました。「エッサイの切り株」。これは主なる神に対する反逆行為のために滅ぼされてしまったユダ王国に、そのかすかな子孫から「若枝が育ち」、救いに導くであろうと予言したのです。私たちの世界はいまだに創造主である神に逆らい続けていますが、イエス・キリストを信じる人々によって救いの光が灯され続けています。主である神を信じてこの世界に一刻も早く平和が訪れるように祈り続けましょう。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 15 章 4-9 節）

パウロは「忍耐と慰め」という言葉を通して、私たちの信仰が薄っぺらな一時的なものでなくどんな困難に見舞われても主である神を信じ続けてきたイスラエルの残りの者たちを思い起こさせています。イザヤ預言者が言う「エッサイの切り株から一つの芽が出て」という言葉を想起させています。神はご自分を信じる人々が救いに至るように約束を果たされるのです。イエス・キリストはその約束のしるしであり、実現であるとパウロは言っているのです。私一人であっても神の約束を待ち望みそのように生きるならば、それによっても主である神は約束なさった救いを実現されるのです。信じる人が多いか少ないかが問題ではなく、救いを信じる人がいれば神はその人だけでなくより多くの人をも救おうとされるのです。

福音朗読（マタイ 3 章 1-12 節）

大声で叫ぶ洗礼者ヨハネの姿が目に浮かびます。「悔い改めよ！」。そのヨハネはファリザイ派やサドカイ派の人々に対し、痛烈な言葉を突き付けます。「蝮の子らよ」。蝮は人を噛んで殺します。そのようにこの人々は善良な人々をかみ殺していると言っているのです。彼らは自分たちのことをアブラハムの子と言っているのですが、ヨハネは勘違いするなと言っているのです。それが救いの補償にはならないのです。神のみ旨に副った生き方が大事だと言っているのです。心を入れ替えて神に向きを変えて生きることこそが大事だとヨハネは声を張り上げて叫んでいるのです。私の生活の羅針盤、コンパスの針は主である神に向いているでしょうか。確かめてみましょう。

クリスマスの準備

P.S.

今週の 8 日（木）は無原罪の聖母マリアの祭日です。マリア様が神さまの特別のお恵みで原罪のない状態でお生まれになり、救い主の母となられたことを祝う日です。サレジオ修道会にとっても大事な日で、ドン・ボスコがこの日一人の少年と出会ったことでその事業が始まりました。サレジオ修道会の事業にとって創立記念日なのです。また、10 日（土）には、足立教会で「オラトリオ足立」を始めます。教会を地域の方々のため、特に子どもたちに馴染めるものにしたいと始めます。よろしくお願いします。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光